

しずにし 清水西遺跡 発掘調査説明資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 平成 24 年 10 月 21 日 (日)

調査要項

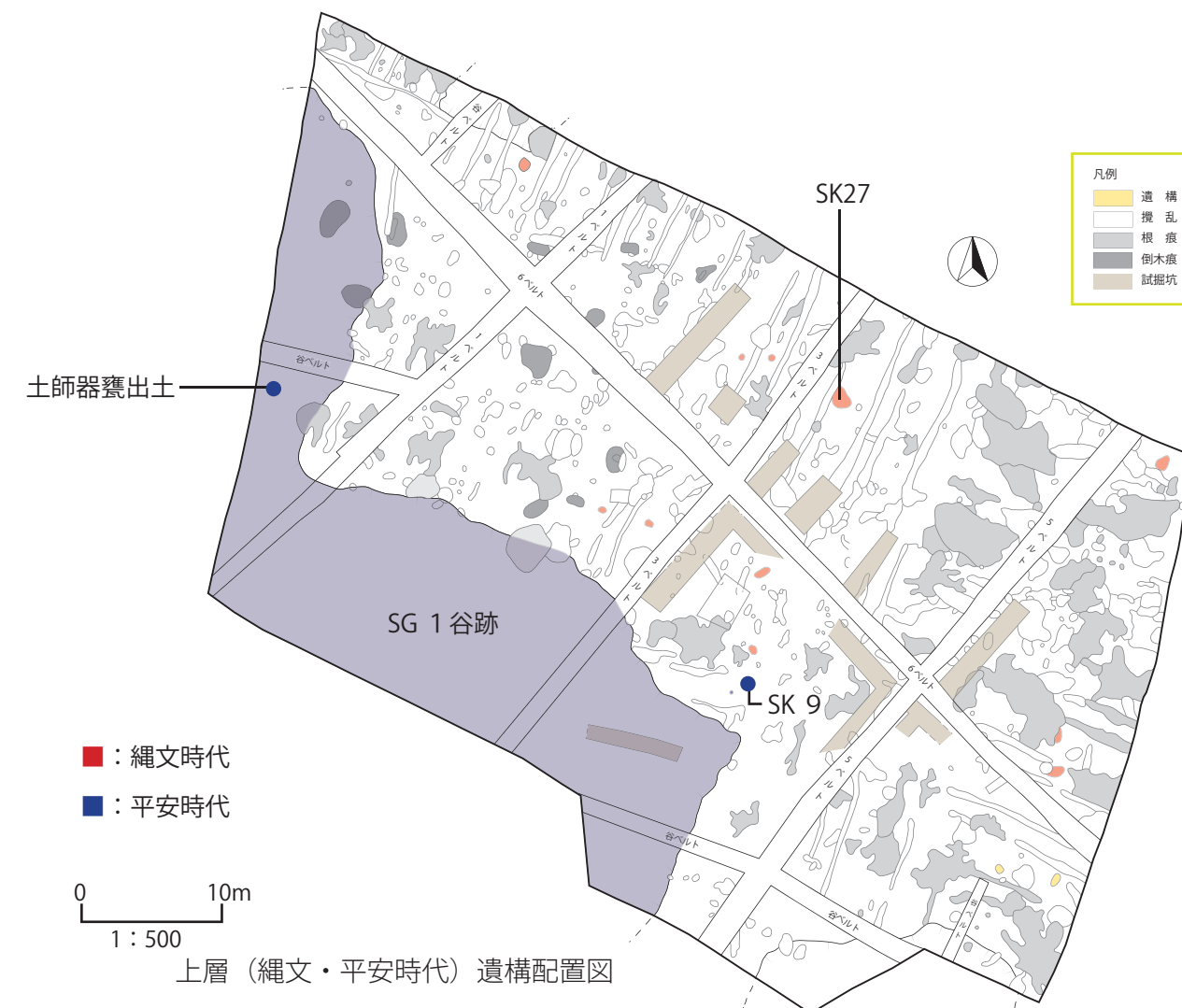
遺跡名(番号) 清水西遺跡(平成 21 年度登録)
所在地 山形県村山市大字名取字清水西
時代・種別 旧石器・縄文・平安時代・集落跡
起因事業 東北中央道(東根～尾花沢間)
調査依頼者 国土交通省東北地方整備局
山形河川国道事務所
調査機関 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査 平成 24 年 5 月 23 日から 11 月 13 日まで
調査面積 2,800m²
調査担当者 主任調査研究員 植松暁彦(現場責任者)
調査研究員 尾形知哉



遺跡位置図 (1/25,000)

調査成果 (10 月 9 日現在)

検出遺物 平安時代:土師器(甕) 須恵器(坏)
縄文時代:縄文土器(深鉢)、石器(矢じり・石ベラ・凹石)
旧石器時代:石器出土集中域:石器(ナイフ形石器・石刃・台形様石器・
局部磨製石斧?)



上層(縄文・平安時代)遺構配置図

1 調査の概要

清水西遺跡は山形盆地北端の河島山丘陵の北につながる小丘の山頂部に立地し、遺跡からは南東に広く村山市街地などが眺望できる見晴らしの良い場所にあります。

本遺跡は、東北中央道(東根～尾花沢間)にかかる名取地区の発掘調査として、平成 23 年に県教育委員会により試掘調査が行われ、今年度に当センターで本調査をすることになりました。

今年度の発掘調査では、上層で縄文時代・平安時代、そして下層で旧石器時代の遺構・遺物がみつけられました。

本調査では、最初に試掘により山頂部などの表土が薄いことが分かっていたため、手掘りによる表土掘削を行いました。また、調査区西・南側には谷跡(SG 1)が判明し、一部重機なども用いました。

その後、上層の遺構検出・精査に努めた結果、縄文時代や平安時代の遺構・遺物がわずかながら確認されました。

次に下層についてを、石器が出土した調査区東側を中心に、手掘りで掘り下げました。当初 5 cm 程の掘り下げの予定でした。しかし、山頂部や斜面部では 20～40cm の深さより石器が出土することがわかったことから、山頂部の石器が集中する範囲を移植ベラで、斜面部を角スコップなどを用いて掘削を行いました。同時に、石器の出土層位を確認するためのベルトを残しながら、検出に努めました。出土した石器については、出土した層位や位置を記録しました。今後、出土した石器分布のまとまりについて詳細に検討を行う予定です。

層序は、上から順に I 層が黒色土、II 層が黒色砂質土、III 層上位が肘折一尾花沢軽石(約 1 万年前)が混じる黄褐色砂質土、III 層中と



SK27 土坑の遺物出土状況(北から)



縄文時代の土器(左)と石器(右)



SK 9 土坑の須恵器坏出土(平安時代)



ナイフ形石器出土状況(旧石器時代)

下位が黄褐色粘土、IV層が地山の赤色風化土（無遺物層）です。

2 見つかった遺構と遺物

上層（平安時代・縄文時代）

平安時代：土坑と谷跡などから須恵器の坏や土師器の甕（かめ）が出土しました。概ね9世紀前半（約1,200年前）と考えられます。

縄文時代：表土や土坑から縄文土器片や石器が出土しました。土器片は微隆起線文がみられる早期のもの、石器は矢じり、石ベラ、凹石（くぼみいし）が出土しました。

下層（旧石器時代）

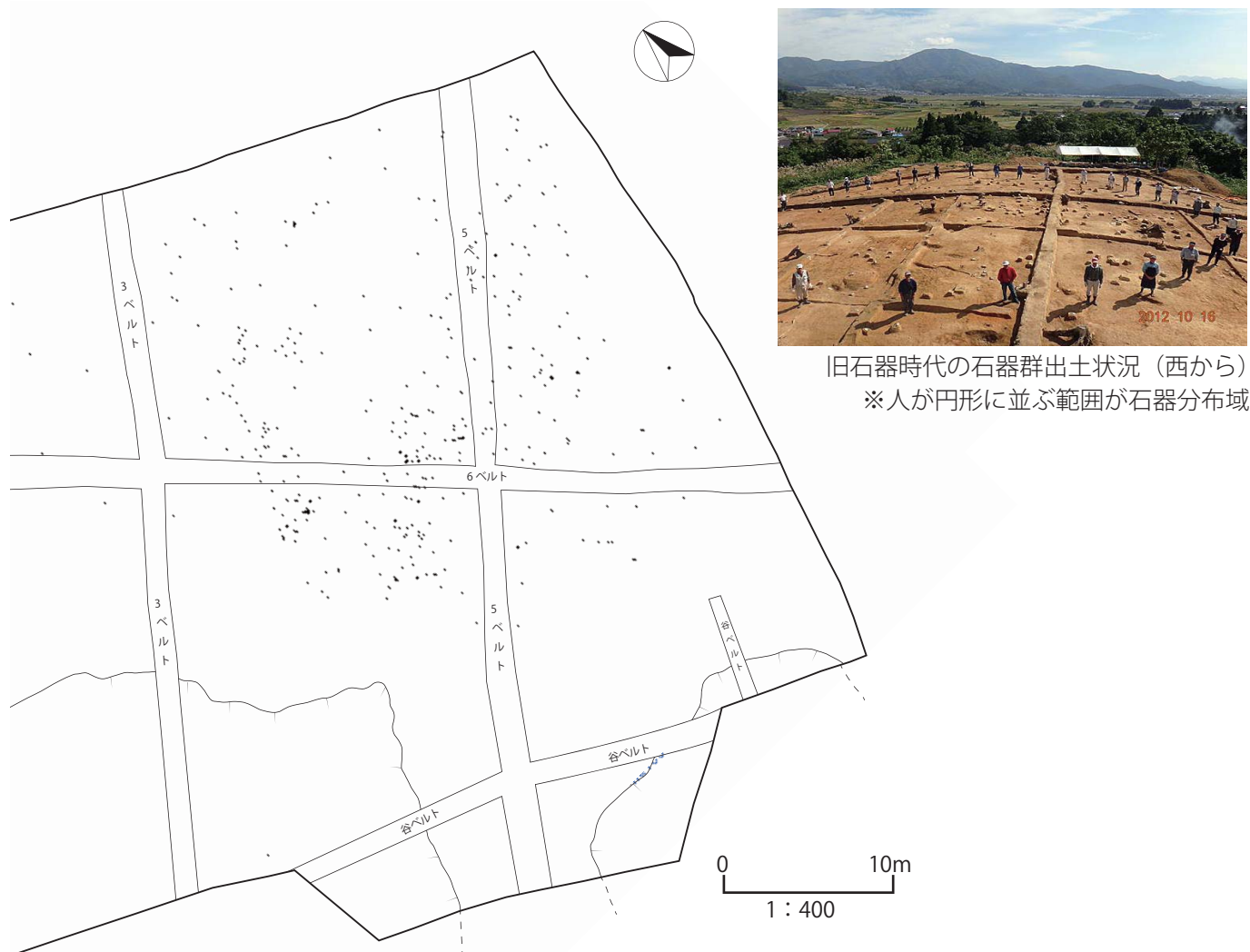
旧石器時代の石器は、主に調査区東側で発見されました。石器は山頂部を中心に直径15～20mの円形の範囲に分布しており、一部は斜面部にわずかに分布していました。

石器は、Ⅲ層上位からⅢ層下位で石器が出

土しました。特に、Ⅲ層中位から出土した石器が多いことがわかりました。

石器の石材は、県内で多く採取することができる頁岩（けつがん）が大半で、他に鉄石英や黒曜石が用いられていました。これらの石材は、薄く石が割れる特徴があります。

遺物の種類は、主に狩りや加工具に用いられる道具になった石器と、その石器を作る際に生じたカケラである大小の剥片と縦長の石刃、その残核（石核）などがありました。具体的に、石器は大型のナイフ形石器があり、多量に出土しました。他に、県教委の試掘調査で発見された台形様石器があります。また、刃部などを磨いた局部磨製石斧（いしおの）が表土から出土しています。ナイフ形石器、台形様石器、局部磨製石斧は、後期旧石器時代前半の遺物である可能性があります。



旧石器時代の石器群出土状況（西から）
※人が円形に並ぶ範囲が石器分布域

下層（旧石器時代）石器出土分布図



A区山頂部（旧石器）の精査状況（東から）



旧石器時代の基本層序（東から）



ナイフ形石器の出土状況



局部磨製石斧（左）と台形様石器（右）：表面

3 まとめ

今回の清水西遺跡の発掘調査でわずかですが、縄文時代早期と平安時代の遺物・遺構が発見されました。調査地で、縄文時代早期や平安時代に人間の何らかの営みがあった可能性があります。

旧石器は、Ⅲ層中位の黄褐色粘土層を中心にして発見されており、Ⅲ層上位に1万年前に降灰した肘折一尾花沢軽石が含まれていることから、1万年よりも古いことがわかります。調査終了後に、旧石器とともに発見された炭化物から放射性炭素年代測定を行い、また土層に噴出した年代がわかっている火山灰が含まれているかなどの分析を進めることによって、旧石器がいつ残されたものであるのかをより明らかにしていく予定です。

発見された旧石器は、縦長に連続的に割り取られたカケラである石刃と、その石刃の一部分に加工を施したナイフ形石器が特に多い

のに対し、石刃を割った際に生じるカケラや碎片が少ないのが特徴です。

頁岩が採れるところにある遺跡では、頁岩を割った際に生じるカケラや石核、そして石刃やナイフ形石器の失敗品がたくさん見つかります。しかし、本遺跡の近隣では、石器の石材になる頁岩が採れません。つまり、本遺跡では、離れた場所から石器石材が運ばれてきて、必要最小限の石刃やナイフ形石器などが作られたことが考えられます。

今後の整理作業や報告書作成で、この地で行われた旧石器時代の人々の営みについて追究していきます。